

岩津ねぎだより

令和2年11月10日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

【生育状況】本年度は、台風被害は少なかったものの、7月の長雨と8月の猛暑により、全体として生育が大幅に遅れています。また、病害虫の発生も多く、黒斑病やアザミウマ等の被害が多く見受けられます。

【今後の管理】出荷規格を満たすまで慌てず、今後も病害虫防除、追肥、土寄せ作業をしっかり行いましょう。

【今後1ヶ月の天気】前半は例年より晴れの日が多く、後半は例年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年と同様か高い日が多い予想です。

1 病害虫防除の徹底を

【秋は黒斑病、さび病、べと病の季節】

＜黒斑病＞ 例年より発生が多い状況です。肥切れや生育後期に草勢が衰えた場合に発生します。病斑上の胞子が飛散し、周囲にまん延します。

＜さび病、べと病＞ 例年よりも少なめですが、一部ほ場で発生しています。

いずれの病気も11月まで発生が続くので今後も注意が必要です。

防除前に発病葉を取り除いてほ場の外に持ち出し処分します。まだ発生が見られなくても、ペンコゼブフロアブル、ヨネポン水和剤などを散布して予防しましょう。

散布の際は、同一農薬の連用は避け、別表を参考にローテーション散布を実施しましょう。また、散布時は必ず展着剤を使用しましょう。



黒斑病の病斑



黒斑病が発生したほ場。
葉先が枯れ上がる。

【ネギアザミウマ～えそ条斑病を媒介～】

ネギアザミウマによる吸汁被害が多く発生しています。ネギアザミウマの被害が多いほ場では、アイリス黄斑ウイルス (IYSV) が感染する、えそ条斑病が確認されました。これはネギアザミウマによって媒介されるウイルス病で、今年兵庫県内で初めて発生が確認された病気です。ネギでは、葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後淡黄色～白色のえそ条斑を生じます。

対策として、媒介虫であるネギアザミウマの防除を徹底しましょう。また、発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、袋に密閉してほ場外へ持ち出し処分しましょう。



ネギアザミウマの吸汁被害がひどいほ場。
葉身がよれて葉先が枯れ上がっている。



アイリス黄斑ウイルスの感染により、
えそ条斑が生じている。

2 土寄せ・追肥・止め土作業の実施

今年はねぎの生育が遅く、土寄せ作業も遅れています。

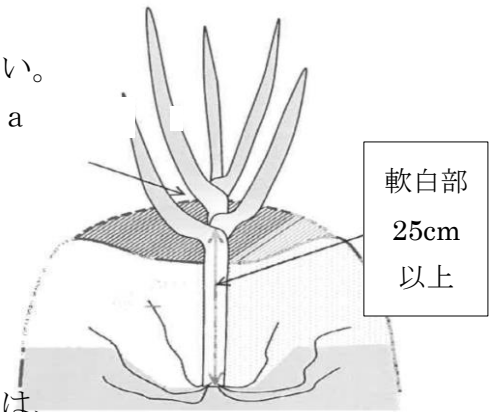
天候、ほ場状態を確認し、早急に土寄せ作業を実施して下さい。

追肥は、土寄せ、止め土前に、燐硝安加里S604を、10a当たり30kgを必ず施用します。

1月以降の出荷用のねぎは、12月に燐硝安加里S604を10a当たり30キロ施用します。

止め土は、収穫予定日の40日前を目安に、図のように、裾首が完全に隠れる所まで十分に土を寄せます。

特産岩津ねぎブランドを守るため、仕上げの管理に当たっては、例年より、白根部（真っ白）の長さを2cm長くする気持ちで仕上げの土寄せを行って下さい。



止め土の状況

3 雪よけ対策は必ず実施

大阪管区気象台の3ヶ月予報では、平年に比べ、12月は曇りや雨または雪の日が多い見通しです。

1回の降雪でも、葉折れ等の被害は甚大です。

右の写真のように、雪よけ対策を実施して、品質向上に努めましょう。

特に、1月以降の計画出荷に向け、年内には、雪よけ対策の準備を進めましょう。

「雪よけ」のかけっぱなしは、葉色が落ちます。ときどきめくって光を当てましょう。



雪よけ対策で計画出荷と被害軽減

4 品質向上の取り組みを～規格を守って出荷しましょう～

現在の生育は、平年に比べ遅れています。出荷を急がず、収穫前には、必ず試し掘りを行い品質の確認を行ってから出荷しましょう。

品質向上に取り組む生産者一人ひとりの対応が、岩津ねぎの収益拡大に繋がります。

軟白長25cm以上、全長70～90cm以上、

葉数2枚以上の確保をお願いします！



別表. 黒斑病、さび病、べと病、アザミウマ類、ネギアザミウマに登録のある薬剤一覧

薬剤（農薬）薬剤名	適用病害	倍率	使用時期等	使用回数
オンリーワンフロアブル	黒斑病・さび病	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
アリエッティ水和剤	疫病・べと病	800倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤 ※1	べと病	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ペンコゼブフロアブル ※2	黒斑病・さび病・ べと病	600倍	収穫14日前まで	3回以内
ヨネポン水和剤		500倍	収穫7日前まで	4回以内
テーク水和剤 ※2		600倍	収穫14日前まで	3回以内
アミスター20フロアブル		2,000倍	収穫3日前まで	4回以内
ディアナSC	アザミウマ類、ネギハモ グリバエ、シロイチモジ ヨトウ	2,500～ 5,000倍	収穫前日まで	2回以内
ダントツ粒剤	ネギアザミウマ、ネギハ モグリバエ	3～ 6kg/10a、 株元散布	収穫3日前まで	4回以内
スミチオン乳剤	アブラムシ類、アザミウ マ類	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内

※1 TPNを含む農薬の総散布回数3回以内 ※2 マンゼブを含む農薬の総散布回数3回以内
※展着剤を混用しましょう。※農薬はラベルの使用基準・注意書をよく読んでご使用ください。

<問合せ窓口>

和田山営農生活センター：672-4800 山東営農生活センター：670-7744
朝来営農生活センター：670-4341 朝来農業改良普及センター：672-6886